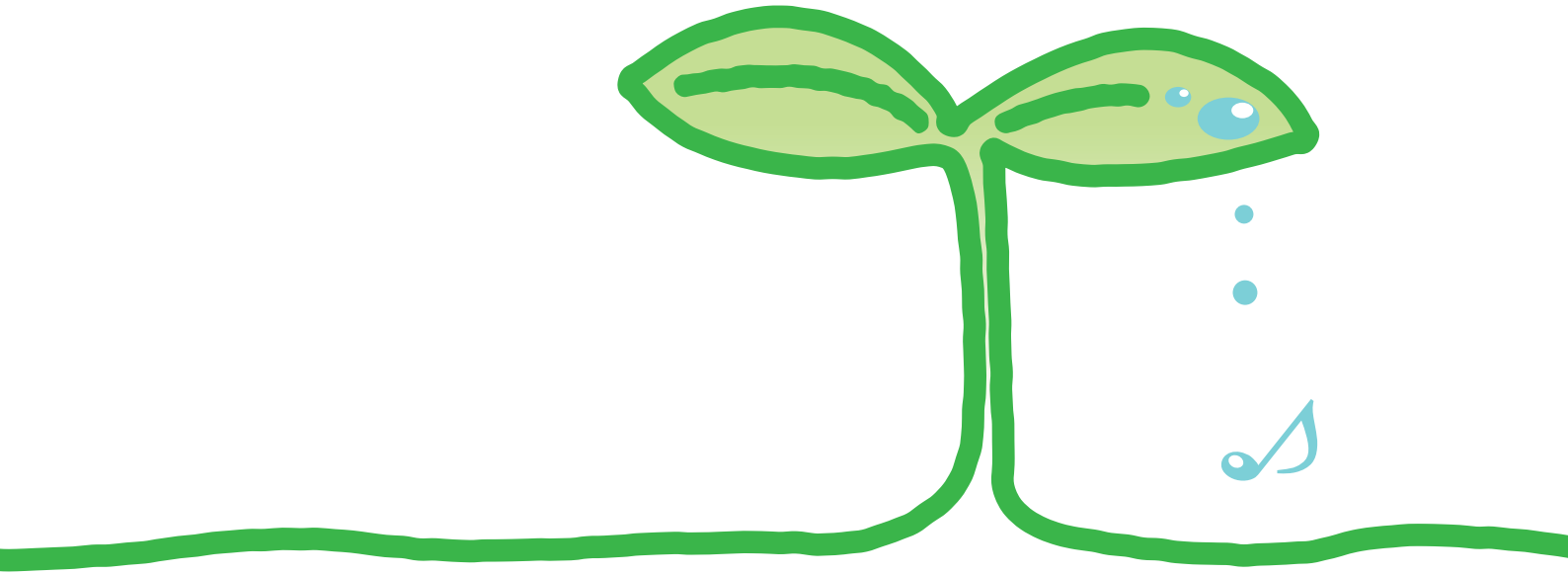
Pioneer sound.vision.soul

東北パイオニア株式会社

環境報告書 2006



Introduction

Special Feature 2006

Environmental Management

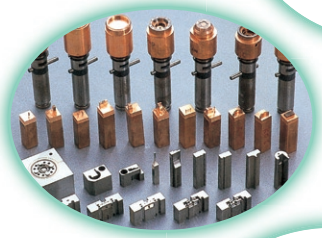
Product Development

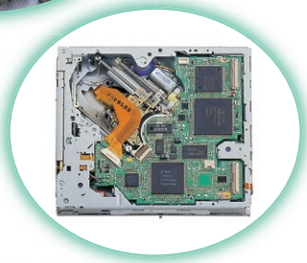
Business Production Process

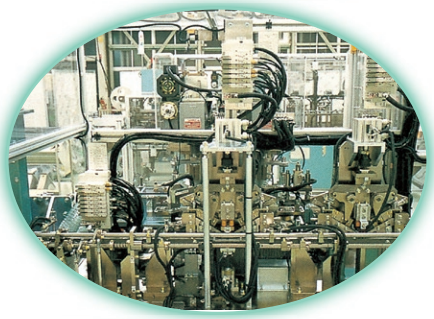
Human&Education

Afterword

会社概要







社　名　東北パイオニア株式会社
本　社　〒994-8585　山形県天童市大字久野本字日光1105
TEL（023）654-1211（代表）
設　立　1966年8月1日
資本金　108億円
上場証券取引場　東京証券取引所第二部
主要製品　スピーカー、カーステレオスピーカー、カーステレオメカニズム、ＦＡシステム機器、マイクロフォン、ヘッドフォン、有機ＥＬ（エレクトロルミネッセンス）、プレス部品、精密樹脂部品、金型

天童本社・工場

天童南事業所

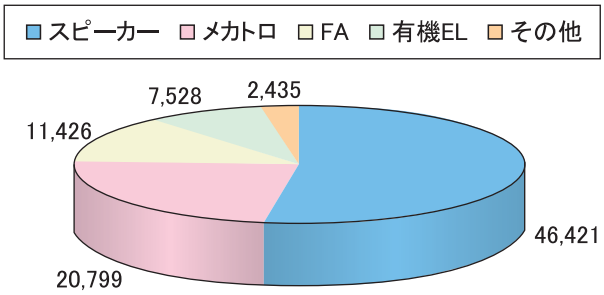
住　　所：山形県天童市大字高擶字薬師原南1441-4
生産品目：ＦＡシステム機器、光ディスク製造装置

米沢事業所

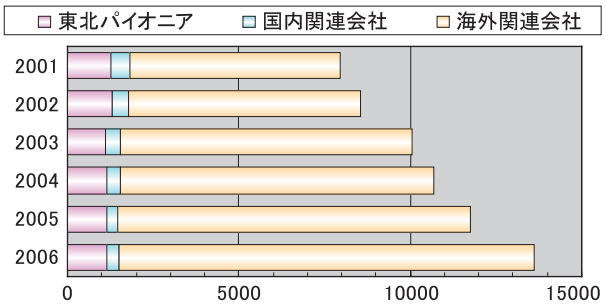
住　　所：山形県米沢市八幡原4-3146-7
生産品目：有機ＥＬ（エレクトロルミネッセンス）

売上高と従業員数の推移

2005 年度連結売上高　88,609 百万円



連結従業員数



報告対象範囲

●対象期間は、2005 年 4 月 1 日～ 2006 年 3 月 31 日です。

●対象範囲は、特に記載のない限り下記の通りです。

天童本社工場　　天童南事業所
米沢事業所

＜国内主要関係会社＞

最上電機株式会社
パイオテック株式会社
ティーエスイー株式会社
テーピーエー株式会社

＜海外主要関係会社＞

PIONEER SPEAKERS , S.A.DE.C.V（メキシコ）
TOHOKU PIONEER (THAILAND) CO.,LTD
SHANGHAI PIONEER SPEAKERS,CO.,LTD

〈Contents〉

はじめに

会社概要	P2
売上高と従業員数の推移	P3
Top Commitment	P4
東北パイオニア環境方針	P5
環境管理計画評価	P6・7

特　集　2006

特集・スピーカーの開発からお客様まで	P8・9
特集・ゼロエミッション	P10・11
特集・モーダルシフトの導入	P12・13

環境マネジメント編

環境マネジメント・推進体制	P14
環境管理システム	P15
環境リスクマネジメント	P16
環境会計	P17
環境負荷物質管理	P18・19

製品設計・開発編

鉛フリーの新技術を開発	P20・21
有害化学物質の使用量削減の取り組み	P22・23
省電力化	P24・25

事業生産プロセス編

温暖化防止～電力使用量削減～	P26
温暖化防止～水資源保護～	P27
グリーン購入	P28

人・教育編

環境教育	P29
社会貢献	P30・31
社会とのコミュニケーション	P32・33

あとがき

Who’s Who	P34
国内外関係会社	P35

Top Commitment

2005年は、2月に京都議定書が発効され、3月に「自然の叡智」をテーマに愛・地球博が開幕する等、「環境の時代」の本格的なスタートが日本から全世界に向けて発信され、地球規模での環境問題への意識が向上しました。しかし取り組みが増える一方で、大地震や風水害等の大型の自然災害も頻発し地球のバランスが歪み始めている事も強く実感させられました。この一年は、技術開発に優れた日本の企業に求められる責任の重さを痛感した年であったとも言えます。

東北パイオニアはパイオニアグループ環境活動ビジョン「事業活動と環境活動の真の統合」の下、「環境経営」「持続可能な社会の発展」を実現すべく、新製品設計段階からの環境負荷物質を含有させない製品プロセス、事業所からゴミ廃棄を出さないゼロエミッションや省エネルギー等の事業活動における環境保全活動を実践してきました。特に2005年は新しい取組みとしてモーダルシフトを実現し、しかも環境対応がコストダウンにもつながるという究極の姿も実現できました。更に全国内事業所・関連会社におけるゼロエミッションの達成、2006年7月に施行されるRoHS指令に向けた規制化学物質含有量の把握と切替対応を完了させ、目標達成に向けて飛躍的な一歩を踏み出すことができました。

私たち一人ひとりが被害者であり同時に加害者である地球環境問題は、幅広くかつ長期的な展望が重要です。国内のみならず海外でも事業を展開している当社では、それぞれの国や地域において法令や社会規範を遵守し、粘り強く堅実に地球環境問題に取組むことが重要であると考えております。以上の考えに立ち、パイオニアグループ創業の礎である「開拓者精神」の下、積極的に環境活動を行うことを通じ、持続可能な社会づくりに貢献していきたいと考えております。

2006年9月
代表取締役社長　塩野　俊司

東北パイオニア環境方針

環境保護の理念

パイオニアグループは、地球環境を維持、改善し、次世代に引き継ぐことが企業の使命の一つであることを深く認識し、常に豊で安全な環境の実現に寄与するよう努めます。

東北パイオニアは、オーディオシステム・パーツ、ディスプレイシステム・パーツ、ＦＡシステム、医療部品、及び金型を開発・製造・販売している事を踏まえ、以下の方針に基づき環境保護活動を行う。

1. 環境関連の法規・規制・協定等を遵守すると共に、自主目標を定め、定期的に見直し、環境保護に努める。
2. 環境マネジメントシステムを評価し、環境パフォーマンス及びシステムを継続的に改善する。
3. 事業活動において省エネルギー、省資源、廃棄物の削減、水質・大気・土壌汚染の防止に取り組む。
4. 環境負荷を軽減する製品を戦略的に設計・開発し、地球環境に配慮した生産活動を行う。

2005 年 6 月 29 日
東北パイオニア株式会社
代表取締役社長　塩野　俊司

環境管理計画評価

自己評価基準
◎……目標を大幅に達成した　○……目標をクリアした

	東北パイオニアグループ課題	2005年度目標	2005年度目標達成状況	自己評価
環境マネジメント	ISO14001認証取得（海外未取得事業所の全認証取得）	MMSA（最上メキシコ）認証取得活動の再構築（認証取得目標2006年度）	MMSA認証取得活動未	×
	グリーン調達	レベル1,2サプライヤーの監査終了	レベル1,2（樹脂部品・印刷部品等）サプライヤーの監査終了及びレベル3（その他の金属部品）の主要サプライヤーの監査終了	○
	環境会計	海外事業所における集計精度向上	円換算による確認・指摘により精度向上	△
製品開発	環境負荷物質の削減	はんだの鉛フリー完全対応	RoHS対象モデルの対応完了	○
		六価クロムフリーの完全対応	RoHS対象モデルの対応完了	○
	エコモデルの開発（製品の軽量化）	OEM新製品モデルの50%に対応（戦略的技術展開の実施）	52%に実施	○
	ライフサイクルアセスメント（LCA）	簡易型LCAの検討	オールパイオニアで簡易型LCAを検討したが、EuP指令によりフルLCAが必要となり、簡易型LCAの検討を途中で断念	×
	省電力化（動作時消費電力の削減）	導入検討継続（高効率アンプIC導入検討開始）	動作時消費電力削減は導入できなかったがカー用CDメカで前モデル比暗電流90%削減。ヘッドホンで前モデル比待機時消費電力1/7に削減。	△
事業生産プロセス	温室効果ガスの削減（省エネ）	原単位目標　2001年度比1%削減	生産高原単位42%増（排出量15%増）	×
	廃棄物の削減（ゼロエミッション）	最上電機のゼロエミッション達成	2005年5月最上電機達成	○
	有害化学物質削減への取組み（有害化学物質の管理・削減）	トルエン使用量前年比5%削減	88%削減	◎
	物流の改善	物流業者様の事業所構内におけるアイドリングストップの徹底、社員への啓蒙	事業所構内におけるアイドリングストップは徹底された。モーダルシフトを導入	◎
	グリーン購入	電子データ使用推進等によるグリーン購入率の向上	購入金額ベースで93%（オフィス家具未達成）	×
	OA用紙の削減		購入金額ベースで1998年度比4%減	△
人・教育	環境教育・啓蒙	海外事業所の環境教育 COCOちゃん運動参加人数100名以上	海外3事業所でサプライヤーミーティングや説明会を実施。 海外2事業所でEHS監査員教育を実施。 COCOちゃん運動　参加者216名。	◎
	環境における社会活動（社会貢献活動の継続と拡大）	地域とのコミュニケーション、地域ボランティア・環境市民活動への積極的参加	工場見学者及びインターンシップでの環境教育の実施。 植林活動参加。 事業所周辺等の清掃活動。	○
	広報活動（社内の活性化、第三者との交流実施）	東北パイオニアグループのHP内容の充実	環境報告書の大幅リニューアルを実施。	○

△……目標に向かって前進したが、さらに努力が必要　×・・目標未達成

2006 年度目標	2010 年度	掲載ページ
MMSA の ISO14001 取得活動の継続。	**2010 環境 vision** **QECD 事業活動と環境活動の真の統合**	15
グリーンスコア海外展開。		18・19
活動の継続と更なる精度の向上	●各種環境配慮項目においてトップ水準となる製品の提供	17
環境法規制への完全対応 （中国版 RoHS、韓国版 RoHS）	●温室効果ガス排出量 ・（国内）90 年比 25％削減（実質生産高原単位）	20・21
継続して軽量化製品を拡大する。 OEM 新製品 30 モデルに対応	・新エネルギー率 5％	8
フル LCA の検討	●グループでゼロエミッション達成	32
動作時又は待機時消費電力の削減機種の拡大	●「企業市民」としての社会との調和	24・25
1990 年度比実質生産高原単位、2010 年度 25％削減に向けた取組み	**2010 年度目標**	26
廃棄物総量の削減：2005 年度比 5 ％削減 ゼロエミッション継続	●温室効果ガス排出量（CO_2） 1990 年度比実質生産高原単位 25％削減	10・11
JEITA・VOC20 物質排出量 2005 年度比実績以下	● CO_2 以外の 5 ガス排出量 2004 年度比 10％削減	22・23
2005 年度トンキロ比実績以下	● VOC 排出量 2000 年度比 30％削減	12・13
金額ベースで文房具 70％以上、 他 12 アイテム 100％	●廃棄物発生量 2004 年度比 10％削減	28
A4 換算枚数：2005 年度比実績以下	●水使用量 2004 年度比 5 ％削減	28
COCO ちゃん運動 2005 年度参加人数比実績以上。 家庭における省エネ意識の啓蒙。 海外事業所での環境教育	● SOx、NOx 排出量 2004 年度比 10％削減	29
地域とのコミュニケーション、地域ボランティア・環境市民活動への積極的参加		30・31
楽しく、見やすく、分かりやすい環境報告書の発行。 東北パイオニアグループ HP 内容の充実		32・33